

平成27年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年4月8日

上場会社名 株式会社SHIFT 上場取引所 東
 コード番号 3697 URL http://www.shiftinc.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)丹下 大
 問合せ先責任者 (役職名)取締役CFO (氏名)福元 啓介 (TEL)03(6809)1165
 四半期報告書提出予定日 平成27年4月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

1. 平成27年8月期第2四半期の連結業績 (平成26年9月1日～平成27年2月28日)
 (百万円未満切捨て)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年8月期第2四半期	1,418	—	167	—	163	—	104	—
26年8月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年8月期第2四半期 107百万円 (—%) 26年8月期第2四半期 —百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年8月期第2四半期	7 73	6 88
26年8月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 平成26年8月期第2四半期においては、四半期連結財務諸表を作成していないため、平成26年8月期第2四半期の数値及び平成27年8月期第2四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。
 2. 当社株式は、平成26年11月13日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。平成27年8月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の計算においては、新規上場日から平成27年8月期第2四半期連結累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
 3. 当社は、平成27年2月1日付で、普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年8月期第2四半期	1,900	1,392	73.2
26年8月期	1,530	1,056	69.0

(参考) 自己資本 27年8月期第2四半期 1,392百万円 26年8月期 1,056百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年8月期	—	0.00	—	—	—
27年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年8月期の連結業績予想 (平成26年9月1日～平成27年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,043	41.5	293	136.2	285	129.6	190	27.3	13 74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成27年2月1日付で、普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社 (社名) 、除外 — 社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

27年8月期2Q	14,298,000株	26年8月期	12,568,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

27年8月期2Q	—株	26年8月期	—株
----------	----	--------	----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

27年8月期2Q	13,531,840株	26年8月期2Q	—株
----------	-------------	----------	----

当社は、平成27年2月1日付で、普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀の各種政策や原油価格の下落の影響等により、企業収益・雇用環境に改善がみられ、緩やかな回復基調が続いているものの、円安進行による物価の上昇や海外景気の下振れリスクなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの関連するソフトウェア市場では、ソフトウェア開発会社がより品質の高いソフトウェアをより効率的に開発することを求められようになっております。また、一方で優秀な開発エンジニアの採用が難しくなっており、開発会社は自社のエンジニアを開発に専念させ、検証業務をアウトソースする傾向にあり、この傾向は引き続き拡大していくものと見込んでおります。

こうした経営環境の下、当社では独自の方法論に基づく高品質なソフトウェアテストサービスを展開し、着実に顧客基盤を拡大してまいりました。当社の主たる対面市場であるエンタープライズ向けソフトウェアテストサービスの領域におきましては、旺盛なシステム投資に対応する形で幅広い領域でのソフトウェアテストニーズが喚起され、大幅な増収となりました。また前期より注力しているゲームを中心としたエンターテインメント向けソフトウェアテストサービスの領域におきましても、ソーシャルゲームプロバイダーを中心に新規顧客の獲得を続けております。

以上のような取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,418,506千円となりました。また、前期に採用した人材の育成や事業の収益責任をより明確にする組織体制の整備を進めた結果、案件単位での収益率が向上いたしました。更なる成長に向けて人材採用、教育への投資を積極的に進めたことで販管費は増加いたしました。営業利益は167,515千円と過去最高益となりました。株式上場に関連した費用が発生したことにより経常利益は163,065千円、四半期純利益は104,564千円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①ソフトウェアテスト事業

ソフトウェアテスト事業では、ソフトウェア開発の各工程において顧客企業のソフトウェア品質の向上に資するソリューションを提供しております。

(i) コンサルティングサービス

主としてソフトウェア開発の上流工程において、ソフトウェアテスト体制導入支援、テスト戦略・計画立案支援、テスト推進支援、テスト設計支援などのコンサルティングサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間においては、前連結会計年度において採用した人材の成長、活躍などが寄与し、受託ソフトウェア開発企業、金融機関に対するサービスが順調に拡大いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のソフトウェアテスト事業のコンサルティングサービスの売上高は437,090千円となりました。

(ii) ソリューションサービス

ソフトウェアテストでは、テスト計画やテスト設計を通じて膨大なテストケースが作成され、これを実行するデバッグ工程に移行しますが、当社グループではこれをソリューションサービスとして受託して提供しております。当社グループでは独自に開発したCATシステムにより生産性を追求したソリューションサービスを提供しており、低価格高品質を実現しております。

当第2四半期連結累計期間においては、ソーシャルゲーム向けサービス、スマートフォンアプリ、ウェブサイトを対象としたテストサービスが順調に拡大したほか、前連結会計年度より注力してきたテスト自動化スクリプト作成などのサービスが拡大いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のソフトウェアテスト事業のソリューションサービスの売上高は939,633千円となりました。

(iii) ヒンシツプラットフォームサービス

当社グループではコンサルティングサービスやソリューションサービスを通じ、幅広い業種業態におけるソフトウェアやその品質に関するナレッジが蓄積いたします。当社グループはそうした蓄積されたナレッジやデータを分析し顧客に有用な情報として提供したり、不具合の発生を予見したり、ソフトウェアテストに関するノウハウを教育サービスとして提供したりしております。

当第2四半期連結累計期間においては、ソフトウェアの仕様書を調査し不具合の発生を予見する仕様書インスペクションサービスや、プロジェクトにおける不具合発生実績や開発状況を元に、システムに偏在する不具合のばらつきを予想し、効果的なテスト手法等を提案する品質分析サービスが順調に拡大いたしました。また、ヒンシツ大学などの教育関連サービスも堅調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のソフトウェアテスト事業のヒンシツプラットフォームサービスの売上高は41,782千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ369,856千円増加し、1,900,542千円となりました。これは主に、現金及び預金が296,817千円、売掛金が47,052千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債につきましては、前連結会計年度末と比べ33,802千円増加し、508,458千円となりました。これは主に、買掛金が36,250千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ336,054千円増加し、1,392,084千円となりました。これは主に新規上場による公募増資や第三者増資を実施したこと等により資本金の増加が114,144千円、資本剰余金の増加が114,144千円あったこと、また四半期純利益104,564千円の計上があったことによります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は前連結会計年度末より296,817千円増加し、1,199,947千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動により獲得した資金は、100,752千円となりました。この主な要因は、法人税等を96,757千円支払ったこと及び売上債権が48,672千円増加した一方で、税金等調整前四半期純利益を163,383千円計上したこと、仕入債務が37,762千円、未払金及び未払費用が29,633千円それぞれ増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は、34,176千円となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出9,791千円及び無形固定資産の取得による支出19,234千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動により獲得した資金は、224,392千円となりました。この主な要因は新規上場等に伴う株式の発行による収入228,288千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年8月期の通期業績予想の前提条件は以下のとおりです。売上高については、継続的な取引先と新規顧客に分けて予想しております。ソフトウェアテストサービスはソフトウェアを開発する事業者に対して継続して提供することが多く、安定した取引関係を維持拡大していくこととなります。そうした継続的な取引先については当社の売上高の約8～9割を占めておりますが、過去の取引実績や営業状況を踏まえつつ、顧客単位で通期の取引予想額を算出しております。一方、新規顧客については問い合わせ数、訪問数、営業担当者数などの過去の実績を参考として通期で獲得が見込まれる金額を算出しております。当期は対前年比41.5%増収の3,043百万円の売上高を見込んでおります。

営業利益については、売上予想値を前提として策定される売上原価計画、販管費計画を踏まえて算出した金額を予想値としております。当社の売上原価の大部分は労務費及び外注費で構成されますが、売上拡大に伴う人員増加を想定し、売上原価は対前年比で37%程度の増加を見込んでおります。また、来期以降に向けた人材採用や教育に投資することを計画しており、採用費を中心として販売費及び一般管理費は前年比30%程度の増加を見込んでおります。当期営業利益は対前年比136.2%増益の293百万円を見込んでおります。

経常利益については、営業利益に当期に発生が見込まれる営業外収益、営業外費用を考慮して算出した金額を予想値としております。当期は上場関連費用の発生を織り込み、前年比129.6%増の285百万円を見込んでおります。

当期純利益については、当期に発生が見込まれる特別利益、特別損失、税金費用を考慮して算出した金額を予想値としており、当期は対前年比27.3%増の190百万円を見込んでおります。なお、前期は子会社の売却に伴う特別利益が多額に発生しております。

当第2四半期累計期間においては、エンタープライズ向けソフトウェアテストサービスを中心として全体的に好調な受注環境で推移するなか、来期以降の成長に向けた人材の採用や教育に対して積極的に投資を行ってまいりました。これにより採用や教育活動による販管費の増加がありましたが、人員の成長に伴う効率的なサービス提供が継続し、案件単位での収益率の向上が予想以上の水準で推移したことから、第2四半期累計期間の業績は前回発表予想を上回る結果となりました。

平成27年8月期の通期業績予想につきましては、当第2四半期累計期間において実績値と予想に差異が発生しておりますが、下期においても来期以降の着実な成長に向けた人材採用や育成、組織活性化にかかる投資活動を優先して実施していくことや、業務提携等による事業開発投資を積極的に進めることに伴う費用先行を見込んでおります。そのため、現時点では平成27年1月9日に公表した予想から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実行税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	903,130	1,199,947
売掛金	262,348	309,400
たな卸資産	3,338	9,982
その他	65,250	72,728
貸倒引当金	△1,611	△1,903
流動資産合計	1,232,455	1,590,156
固定資産		
有形固定資産	133,012	131,416
無形固定資産	59,827	70,921
投資その他の資産	105,389	108,048
固定資産合計	298,230	310,385
資産合計	1,530,685	1,900,542
負債の部		
流動負債		
買掛金	53,549	89,800
1年内返済予定の長期借入金	10,920	10,920
未払費用	145,020	163,980
未払法人税等	104,883	67,200
賞与引当金	42,386	55,796
その他	104,565	112,408
流動負債合計	461,325	500,106
固定負債		
長期借入金	13,040	8,000
その他	290	351
固定負債合計	13,330	8,351
負債合計	474,655	508,458
純資産の部		
株主資本		
資本金	452,950	567,094
資本剰余金	437,950	552,094
利益剰余金	163,875	268,440
株主資本合計	1,054,775	1,387,628
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,254	4,455
その他の包括利益累計額合計	1,254	4,455
純資産合計	1,056,029	1,392,084
負債純資産合計	1,530,685	1,900,542

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
売上高	1,418,506
売上原価	919,963
売上総利益	498,543
販売費及び一般管理費	331,028
営業利益	167,515
営業外収益	
受取利息	73
為替差益	2,928
その他	402
営業外収益合計	3,404
営業外費用	
支払利息	82
株式交付費	5,532
上場関連費用	2,239
営業外費用合計	7,854
経常利益	163,065
特別利益	
子会社株式売却益	318
特別利益合計	318
税金等調整前四半期純利益	163,383
法人税等	58,819
少数株主損益調整前四半期純利益	104,564
四半期純利益	104,564

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)	
少数株主損益調整前四半期純利益	104,564
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	3,201
その他の包括利益合計	3,201
四半期包括利益	107,766
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	107,766
少数株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	163,383
減価償却費	21,513
貸倒引当金の増減額(△は減少)	292
賞与引当金の増減額(△は減少)	13,409
受取利息及び受取配当金	△73
支払利息	82
為替差損益(△は益)	△2,937
子会社株式売却損益(△は益)	△318
売上債権の増減額(△は増加)	△48,672
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,644
前払費用の増減額(△は増加)	△6,007
仕入債務の増減額(△は減少)	37,762
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	29,633
その他	△3,906
小計	197,518
利息及び配当金の受取額	73
利息の支払額	△82
法人税等の支払額	△96,757
営業活動によるキャッシュ・フロー	100,752
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△9,791
無形固定資産の取得による支出	△19,234
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△280
敷金の回収による収入	2,141
敷金の差入による支出	△7,011
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34,176
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△3,895
株式の発行による収入	228,288
財務活動によるキャッシュ・フロー	224,392
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,849
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	296,817
現金及び現金同等物の期首残高	903,130
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,199,947

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年2月28日)

当社は平成26年10月8日及び平成26年10月23日開催の取締役会決議に基づき、有償一般募集による新株式の発行を行い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ59,800千円増加しております。また、平成26年12月12日付でオーバーアロットメントによる売出しに関連して、野村証券株式会社から第三者割当増資の払込みを受け、資本金及び資本剰余金がそれぞれ46,644千円増加しております。さらに、新株予約権の行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ7,700千円増加しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ114,144千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が567,094千円、資本剰余金が552,094千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年2月28日)

前連結会計年度におけるScentee事業の譲渡、及び第1四半期連結会計期間における株式会社アドバゲーミングの全株式譲渡に伴い、当社はソフトウェアテスト事業のみの単一セグメントとなりました。これによりセグメント情報の記載を省略しております。